

令和 5 年度
自 己 評 価 報 告 書

2024 年3月31日現在

札幌ベルエポック美容専門学校

2024 年 5 月31日作成(最終)

目 次

1 学校の概要等.....	1	2-3 事業計画	17
学校の概要	1	2-4 運営組織	18
自己点検・自己評価に対する姿勢	3	2-5 人事・給与制度	20
学校関係者評価委員会の構成と意義.....	4	2-6 意思決定システム.....	21
教育理念	5	2-7 情報システム	22
学校の目標(今後5年間).....	6	基準3 教育活動.....	23
学校組織の整備	7	3-8 目標の設定	24
学校組織の整備	8	3-9 教育方法・評価等	25
本年度の重点課題	11	3-10 成績評価・単位認定等.....	28
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	12	3-11 資格・免許取得の指導体制.....	29
1-1 理念・目的・育成人材像.....	13	3-12 教員・教員組織	30
基準2 学校運営.....	15	基準4 学修成果	32
2-2 運営方針	16	4-13 就職率.....	33
		4-14 資格・免許の取得率.....	35
		4-15 卒業生の社会的評価	36
		基準5 学生支援.....	37
		5-16 就職等進路	38
		5-17 中途退学への対応.....	39
		5-18 学生相談	40
		5-19 学生生活	42
		5-20 保護者との連携	44
		5-21 卒業生・社会人	45
		基準6 教育環境	47
		6-22 施設・設備等	48

6-23 学外実習、インターンシップ等	50
6-24 防災・安全管理.....	52
基準7 学生の募集と受入れ.....	54
7-25 学生募集活動	55
7-26 入学選考.....	58
7-27 学納金.....	60
基準8 財 務.....	62
8-28 財務基盤.....	63
8-29 予算・収支計画.....	65
8-30 監査	66
8-31 財務情報の公開	67
基準9 法令等の遵守.....	68
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	69
9-33 個人情報保護	70
9-34 学校評価.....	71
9-35 教育情報の公開.....	73
基準10 社会貢献・地域貢献	74
10-36 社会貢献・地域貢献.....	75
10-37 ボランティア活動	78
4 平成29年度重点目標達成についての自己評価.....	79

学校の概要

1. 学校の設置者

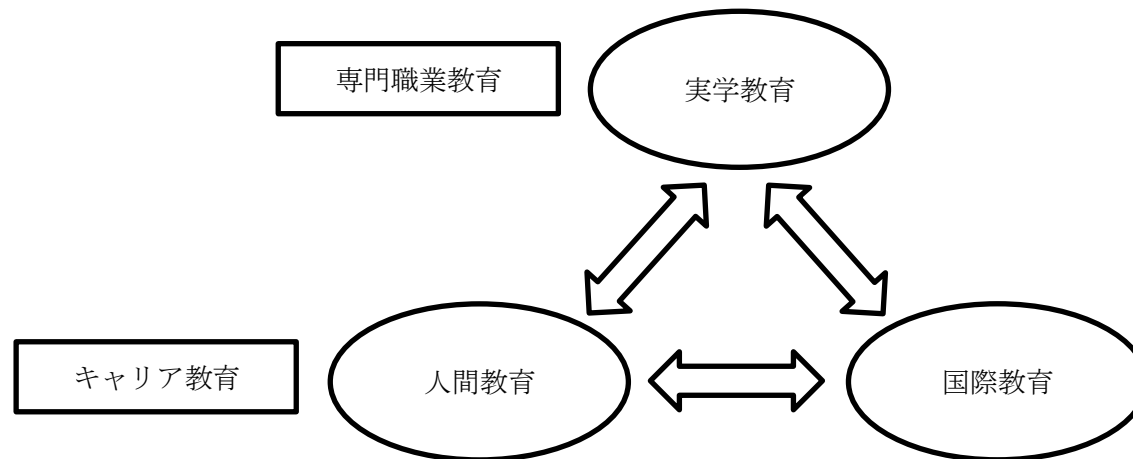
札幌ベルエポック美容専門学校は、学校法人滋慶学園が設置しています。学校法人滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人です。

2. 開校の目的

札幌ベルエポック美容専門学校は、美容、ブライダル、ファッションに関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を備えた、「クオリティ・オブ・ライフのコーディネーター」を育成することを目的としています。

その育成を通じて、若者から高齢者まで幅広い世代の人々が心身ともに健やかに美しく、豊かに生きていける社会に貢献します。

また「職業人教育を通じて社会に貢献する」という滋慶学園グループのミッションのもと、職業人教育は「専門職業教育」と「キャリア教育」の2つの要素で構成されると位置づけており、学園グループ共通の建学理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」が2つの要素に該当すると考えています。



学校の概要

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 池田 尚志 所在地 札幌市中央区北1条西9丁目3-4 連絡先 011(261)0141

4. 学校の沿革、歴史

- 2002 年 学校法人滋慶学園ベルエポック美容衛生専門学校札幌校開校 美容師科、トータルビューティ科設置
- 2005 年 ベルエポック美容衛生専門学校札幌校から分離独立し、札幌ベルエポック美容専門学校として開校
- 2007 年 新館増築
- 2012 年 ブライダルビューティ科設置(2013 年ブライダル科に名称変更)
- 2014 年 美容師科が職業実践専門課程の認定を受ける
- 2015 年 ヘアメイク科、トータルビューティ夜間課程(1 年制)設置
- 2016 年 美容師実践科設置
- 2017 年 ブライダル科・トータルビューティ科夜間廃止
- 2020 年 ヘアメイク科、トータルビューティ科が職業実践専門課程の認可を受ける
美容師実践科廃止
- 2023 年 札幌市中央区北1条東1丁目7-1から札幌市中央区北1条西9丁目3-4に移転

5. その他の諸活動に関する計画(防災計画)

学校と企業が連携した「現場力教育」に注力。現在最新の美容を提供している業界(東京・札幌)に学校へ来ていただき実施するTOPサロンゼミ、学生がプロの現場へ出ていきプロの現場を体験するアシスタントプログラムなどを通し、技術・知識はもちろん、業界でのマナーや挨拶、時間管理の大切さや、主体性を発揮し自ら動くことの大切さを学校での授業では得られないことを体感できるプログラムを実施しています。更には美容、ファッション業界のみならず、エンターテインメント業界、TV業界、スポーツ業界などとの連携も実施しています。

防災訓練については、毎年消防署の協力を得て、定期的に実施しています。

自己点検・自己評価に対する姿勢

2005 年 3 月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校を持つ職業教育力の特徴は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。一人ひとりを目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり職業人教育※は、専門学校においてのみ可能なことです。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※の開発に取り組んできました。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズをふまえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図って行きます。

※ 職業人教育：職業人教育を我々は以下のように定義します。

職業人＝ 専門職業教育 ＋ キャリア教育

専門職業教育とは、特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育

キャリア教育とは、職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育

※ 教育システム 広義の教育システムを以下の 5 要素で考えています。

「養成目的と教育目標」(養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標)

「目標達成プロセス」(カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス)

「目標達成素材」(教科書、教材、教育技法)

「目標達成支援人材」(担任、専任講師、非常勤講師)

「評価基準」(透明性、公平性、競争性)

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、学校関係者評価委員会を組織します。本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、学校関係者からの理解と参画を得て、意見、評価をいただきます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における学校関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていくことを約束いたします。

教育理念

① 実学教育

美容、ヘアメイク、ブライダル、ファッションの職業・職種で、即戦力となる知識・技術を身につけます。

実学教育の要となる教育システムが CPI 教育システムです。CPI 教育システムとは、Communication(導入教育)の C、Professionalism(専門教育)の P、Independence(実践教育)の I を意味し、導入教育では、美容業界でプロになるために、自ら目標設定することの大切さを学ばせます。専門教育では、授業で学んだことを、実習やコンテストで確認し、終了することを繰り返すことで、担任や講師からフィードバックとカウンセリングを受け、新たな目標を設定します。実践教育では、学び取った知識や技術を仕事で実践するために、自分なりの工夫を凝らし考える力を身につけます。

② 人間教育

いかなる職種においても必要とされる、プロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成します。

専門職として仕事をする上で、サービス力、コミュニケーション力が求められています。いかに技術的に優れていても人間性に欠けては信頼される職業人にはなれません。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になって来ます。まず、開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導に取り組んでいます。さらに就職講座や現場実習での事前・事後教育において、プロ意識を醸成するとともに、気づきの機会を与え、サービスマインド、コミュニケーション力を実践の場で身につけることができる環境をつくっています。

③ 国際教育

在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養います。

美容、ブライダル、ファッションの業界も、今では国境を越え、プロとして仕事をする上で、海外のお客様や取引先と接する機会はますます増えています。それぞれの分野で先進的な取り組みをしている海外の学校や団体などに赴き、学ぶことができる海外研修を実施しています。『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。

学校の目標(今後5年間)

5ヵ年の目標(2024～2028年度の5年間に、以下の目標を達成します。)

1. 学校のブランド化。(商品力強化・イノベーションを図り、定員充足率100%を目指す)
2. 2023年4月1日から製菓調理校と校舎が統合されたことにひり、ベルエポックとて新たな価値・顧客を生み出す。
3. 安定的な経営基盤をつくる。(魅力的な学校作りと働き方改革にともなう業務効率化)
- 4.

目標の意

1. 少子化の波が押し寄せるなか、美容学校を取り巻く環境は年々厳しくなっている。しかし受験生・学生・業界にとって魅力的な学校作りをしていくことで永続的に学校を反映させていくことができると考えている。本校では「最新の美容・ファッションを一人ひとりに」を軸に産学連携を強化した学校改革に取り組んでいる。2023年4月からは製菓調理校との校舎統合がなされ、新たな価値を生み出すことで相乗効果を発揮できるよう、計画をしていく。

組織改革、学科(商品)イノベーションを推進し、目標達成の1つの指標として定員充足率100%を目指していくとともに学校のブランド化を図っていく。

2. 学校を永続的に反映させていくために経営基盤、とりわけ財務基盤を整えていくことは大変重要であると考えている。

魅力的な学校作りによる定員充足と、組織改革を行なうことで業務効率化の両輪で適正な財務基盤を築いていく。

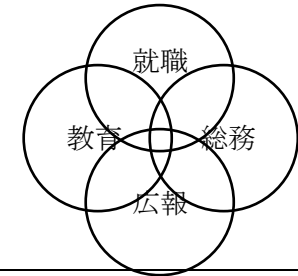
以上の目標を達成する過程で即戦力として活躍できる美容人材を業界に輩出することで、広く美容業界の発展に貢献していく学校を目指す。

学校組織の整備

① サッカー型組織

私たちの学校は大きく4部門(教務、企画、就職、総務)で構成されています。それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。

機に応じて役割が変化したり、通常役割を越えて働くことを良しとする、サッカーのような組織を理想としています。



② 職務分掌

理事会	グループ総長	滋慶学園グループ全体の運営方針、人事の決定を行なう。
	法人理事長	滋慶学園グループの運営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行なう。
	常務理事	滋慶学園グループの運営方針に基づき、グループ校の運営方針の決定を行なう。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	副学校長	学校長を補佐・代行し、学校業務の質と実績を高めるために助言・諸活動を行なう。
	エリア長	常務理事を補佐し、グループ校の運営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行なう。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	特に教育活動の業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現の諸活動を行なう。
	学科長	学部・学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	【1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック】向上のための教育改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言する。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員、及び学生の環境整備について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その向上のための責任を負う。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行なう。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し積極的にその諸活動を行なう。

学校組織の整備

④ 変化に強い組織

社会の変化が激しい中、社会の変化に対応するために挑戦を恐れない組織・職場環境を構築することにより、固定観念に捉われず常にイノベーション思考を持った組織になる。

1. 人材育成を意識した人員配置

スタッフの WANT MUST MISSION を明確にし、将来のキャリアプランを見据えた人材配置を行う。

2. 部署間連携を意識した組織運営

「学内組織のシンプル化」を促進するとともに、部署間のコミュニケーションの活発化により相互支援体制を構築し、相乗効果を発揮する。

3. 事務の統合とシステム化

美容校との校舎統合により、事務部の統合とともにシステムを統一することで学校運営の効率化を図る。

会議のシステム

グループ会議

【拡大常務会】	月 1 回
【グループ戦略会議】	月 1 回
【エリア別戦略会議】	月 1 回

学内会議

【全体会議】	月 1 回	全教職員
【運営会議】	月 1 回	局長、部長、学科長、センター長
【学科、センター会議】	月 1 回	学科スタッフ、センタースタッフ
【TBM (Tool Box Meeting)】	朝礼、終礼、他適宜	

学校組織の整備

④意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方法	目的	実施回数	主催者	対象者
常務会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関	7回／年	総長	常務理事・指名者
グループ戦略会議	グループ最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	6回／年	常務理事	本部長・指名者
運営会議	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行なう。学科長クラスの目標達成力及び問題解決力を育成強化する。	1回／月	事務局長	部署リーダー
全体会議	建学の理念、4つの信頼を基に第5期5ヶ年計画と事業計画の諸方針に従った日常業務の遂行方法を学ぶ。学科部署を越えた共通の課題から、特に重要な問題について認識を共通にする。	1回／月	事務局長	全教職員
部署別会議	各部署の年度目標達成に向けて発生する様々な問題を協議、解決する。	1回／月	部署リーダー	全教職員
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に協議する。	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
ミーティング				
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について時間をとって話をするにより、スタッフ、トレーナーへのノウハウやスキルを伝え、問題解決、発見につなげる。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ/トレーナー
講師 O・N・O	教育システム改革に基づく授業運営、教育方針の徹底をはかり、問題発見の機会とする。	1回／年	事務局長・教務部長	講師
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善をはかる。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする	毎日	事務局長	全教職員
E・メール LINE ガルーン Microsoft teams				
議題・議事録	議題配信:事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信:決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	議長・書記	参加メンバー全員

※ O・N・O ONE・ON・ONE の略 1対1の面談

学校組織の整備

⑤滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所(略称JESC、以下JESCという)は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。本校が参加するJESCの主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための職員の研鑽と人材育成の場として毎年開催しています。
JESC教育部会 美容教育部会	美容に関連する学科、コースを設置している学校で部会活動を行なっています。活動内容は、情報収集、資格試験データ分析・データ管理、講師、実習、求人の相互活用、模擬試験問題作成などです。
教務マネジメント研修	教務マネジメントに携わるマネージャーを対象に研修を行ない、教務マネジメント力の向上を目指しています。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と、直接学生と接点を持つ前教職員が2年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識技術を活かし、学生カウンセリングを行なっています。
OJTトレーナー研修	新入職者に対してトレーナーとしての心構え及びトレーナーに求められるスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しくめるよう研修を行なっています。

⑥学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の5ヵ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画を落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行なっています。
広報(入学前教育)研修	広報は入学前教育の考え方をもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適正に合わせた進路指導ができるよう研修しています。

令和5年度の重点課題

○組織・運営:シンプル・スピード・コミュニケーション(100 倍コミュニケーション)

- ① 明るく元気なチームになるための環境づくり・あいさつ運動の実施・継続(教職員・学生)
- ② DX 導入・コミュニケーションシステムの再構築:ガルーンの有効活用・ガルーン活用による業務の属人化解消、システム化

○広報

- ① 地域広報の展開・お得意様高校 20 校へのアプローチ・出願率向上・ガイダンスセンターとの連携・出張 OC
- ② 早期広報の確立・中学校との連携 札幌市内の中学校訪問の実施・中学生向け OC の開催・職業体験講座受け入れ

○教育

・担任業務効率化のため shaiepoint を活用したクラス運営・担任会議による担任の教務マネジメント力の向上・2 校合同教務研修の実施により学校全体の教育力、新しい価値を生み出す

○就職

- ①就職支援システムイノベーション・shaiepoint を活用した就職支援・業界と連携した就職支援・東京就職増加プログラムの実施

○校舎統合による新しい価値の創造

・美・食連携教育カリキュラムプロジェクト

基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
【全体総括】 ○組織・運営 昨年に続きシンプル・スピード・コミュニケーション(100 倍コミュニケーション)をテーマにチーム力の強化を図ったが、年度当初はマネジメントが機能しなかったチームもあった。 ○広報 イベント運営、フォロー、高校訪問、ガイダンス等の精度を上げ出願率向上を目指したが、結果として入学定員を 5 名下回ってしまった。 中学生への早期広報に関しては、職業体験の受け入れ、中学生向け職業体験セミナーを実施し認知拡大に取り組んだ。 ○教育 担任業務効率化のためチームスの導入を図るとともに、担任会議による担任の教務マネジメント力の向上教務研修の実施により学校全体の教育力向上に取り組んだが、退学者率 10.9%、進級者率 86.6%という結果であった。昨年度に比べると退学者率の低減、進級者率の向上は見られたものの、より教育力、学生支援力の向上が必要。 ○就職 shaiepoint を活用した就職支援を開始した。トータルビューティ科は年内就職 100%を達成するも全体の就職率は 81%に留まった。 ○校舎統合による新しい価値の創造 4 月 1 日に校舎移転が完了。製菓調理との合同校舎になり、合同イベントの開催などを始めた。	○組織・運営 人財育成のための人員配置、部署間を横ぐしにした組織運営、事務の統合とシステム化に取り組み効率化を図るとともに、元気な組織を作る。 広報 ①学生プレス育成、教職員の広報スキルアップ、ガイダンス・高校訪問・オープンキャンパスの効果的展開に注力し、出願率向上を目指す。 ②学費による辞退防止策を講ずる。 ③年間計画に基づいた確実な実行をすることで、定員充足を目指す。 教育 ①即戦力カリキュラムの強化 「業界コラボ」「TOP サロンゼミ」「アシスタントプログラム」を中心に即戦力を培うプログラムを強化する ②フロー教育の徹底 教育目標を達成するための仕掛け、仕組みを構築する。多様化対策、Z 世代対策 ③美と食の統合による新しい価値、幅ひろい学びの提供 学生の興味の領域を増やし、幅広い知識や経験を積める場を提供し、学生満足度を高める 就職 ①キャリアセンター＝DX 化と仕組みづくり 業務システム及び sharepoint の活用を通してさらに労働生産性を向上する ②業界訪問の実施 札幌・東京のサロン、事務所、企業訪問計画を立案し、業界とのパイプを構築する 校舎統合による新しい価値の創造 美・食連携教育カリキュラムや学生間交流を促進していく	企業・業界と連携したトップサロンゼミや企業とのコラボレーションを多数実施。楽天ファッションウィーク東京など世界的なファッションショーへの参画を果たした。 また、ヘメイク科を中心にヘアショーチームを結成し、レバンガ北海道の試合時のオープニングやハーフタイムショー、滋慶学園北海道の入学式在校生プレゼンテーションで活躍した。 2023 年 4 月 1 日に校舎移転を完了した。

最終更新日付

2024年5月31日

記載責任者

山口 敦

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	☐ 理念に沿った目的・育成人材像になっているか ☐ 理念等は文書化するなど明確に定めているか ☐ 理念等において専門分野の特性は明確になっているか ☐ 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか ☐ 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか ☐ 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか ☐ 理念等の浸透度を確認しているか ☐ 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	3	☐ 学園の理念に沿った目標を掲げ取り組んでいる ☐ 理念等は文書し明確に定めている。 ☐ 美容系分野の養成校として特性が表れている。 ☐ 実学と人間教育、国際性を身につける教育体系が組んでいる。 ☐ 養成目的、教育目標、シラバスが計画に基づいて実施されている。 ☐ 学校の3つのPに基づいた学科ごとの3つのPを定め、HP等で公開している。	☐ 入職2～3年目の職員への学園の理念浸透。	☐ 会議、研修等で常に触れる環境を作る。	当該年度事業計画
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	☐ 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ☐ 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	3	☐ 関連業界等との共同プロジェクトを通して毎年の修正と明示を行っている。 ☐ 教育課程編成委員会を実施している。	☐ 企業と連携した課題設定と評価。	☐ 実施報告書の改定と評価方法について検討する。	

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	☐ 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか ☐ 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか ☐ 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		☐ 一般公募とは別に関係業界からも学校側から積極的に募集し窓口を公にしている。 ☐ 業界や専門職講師からのアドバイスを開講準備会議等で集約している。			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	☐ 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか ☐ 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	3	☐ 通常授業とは別にトップサロンゼミ、企業コラボ(アシスタントプログラム)を実施し、業界と直結したプログラムを実施している。	☐ 年間計画への落とし込みと評価。	☐ 年度当初から年間スケジュールに組み込む。	入学案内パンフレット
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	☐ 中期的(5 か年計画)な視点で、学校の将来構想を定めているか ☐ 学校の将来構想を教職員に周知しているか ☐ 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	☐ 中期的な視点として事業計画勉強会を開催している。 ☐ 学校・学科レベルにおいても事業計画を策定し組織内での周知がなされている。 ☐ 将来構想を HP、入学案内等で告知している。	☐ 事業計画の浸透。	☐ 会議、研修で常に触れる。	事業計画書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理念、目的目標、育成人材等について、事業計画を基に各種会議等を通して周知し理解をする機会を設けている。	学校の3つのポリシー、学科の3つのポリシーを定め公開している。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	山口 敦
--------	------------	-------	------

基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校運営に関しては、滋慶学園グループ共通の理念のもと、中長期計画(5 か年計画)と単年度ごとの事業計画 を策定し運営を行なっている。 組織の意思決定は月1回行なわれる運営会議を中心に各部署会議、プロジェクト会議等を開催している。また、教員の資質向上のための各種研修も学園内の研修機関 JESC と連携して実施している。 情報システム等についても滋慶学園グループの関連企業と連携しており、セキュリティ面、運営面で万全の体制をとっている。	組織改革、人材育成、働き方改革を実行し、安定した財務基盤を確立させる。 組織改革 校舎統合により、事務部門の統合を図り効率化する。 人材育成 マネージャーのマネジメント力向上とリーダーの育成 担任力向上 JTSC との連携 予算管理 学生支援センターを所管部署とし、予算執行、管理を強化する 働き方改革 ・残業時間削減のため、マネージャーが中心とな業務管理、リシフト管理をしていく。	・5ヵ年計画を策定している ・事業計画は単年度ごとに策定し、毎年見直している。 ・情報システムは、滋慶学園グループのサポートである企業 BSC と連携してパソコン・ネットワーク・iPad での出欠管理等を実施している。 ・マイクロソフト team、SharePoint などを導入し効率化を図っている。

最終更新日付

2024年5月31日

記載責任者

山口 敦

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	☐ 運営方針を文書化するなど明確に定めているか ☐ 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか ☐ 運営方針を教職員等に周知しているか ☐ 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	3	☐ 事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」を明確に文書化し、周知、浸透の機会を常に設けている。 ・文書としての配布 ・勉強会の実施 ・全体研修での周知と理解度確認を実施。	☐ 年度の初めに共有するが、定期的に確認しないと置き去りになる。 ☐ 職員の理解度・実践度は個人差があり、これを向上させることが課題。	☐ 運営会議、全体会で事業計画進捗状況を確認する。	事業計画書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
運営方針については、年度当初から周知され、教職員のすべてが理解し実践していると思われる。但し理解度、実践度においては個人差もあり、これを向上させる必要があると考える。	新入職員に対しては、毎年3月末に学園全体の理念・方針などの考え方についての研修(スタート式)を実施しており、個人差が出ないようにしている。また、OJT 研修を通して理念、考え方を伝えている。

最終更新日付	2024 年5月31日	記載責任者	山口 敦
--------	-------------	-------	------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	☐ 中期計画(3～5 年程度)を定めているか ☐ 単年度の事業計画を定めているか ☐ 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか ☐ 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか ☐ 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	3	☐ 中期計画(5 か年計画)を定め共有している。 ☐ 単年度計画も明確に定められている。 ☐ 事業計画に予算、事業目標等を数値で明示。 ☐ 事業計画の執行体制においては、「組織役割表」設定し明確化している。 ☐ 執行・進捗管理状況は運営会議で「毎月1回」確認を行ない、事業計画は「半年」を目安に(予算等の)見直しの機会を設けている。	☐ 組織体制については、学生数の変化、学科の将来を見据えた体制を組む必要がある。 ☐ 予算執行については、各チームのマネージャーがチーム予算を把握し、その範囲内で執行する意識を高める必要がある。	☐ 各チーム予算の執行権限と同時に管理責任を持たせる。 ☐ 学生支援センターを予算管理所管部門に定め、予算執行・管理の強化を図る。	事業計画書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
事業計画については教職員と共有し、それに基づいた業務執行を行っているが、定期的にその進捗状況を確認する必要がある。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	山口 敦
--------	------------	-------	------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	☐ 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか ☐ 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ☐ 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	☐ 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。 ☐ 理事会、評議員会共に必要な審議と議事録の作成がなされている。 ☐ 寄附行為は、必要に応じて改定の機会が設けられている。			理事会、評議員会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	☐ 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか ☐ 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか ☐ 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ☐ 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ☐ 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか ☐ 組織運営のための規則・規程等を整備しているか ☐ 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	☐ 組織体系の整備、役割の明確化もされている。 ☐ 毎年の事業計画に基づいた新年度組織図が作成され、教職員に開示されている。 ☐ 各部署の組織役割表を基に明確化されている。 ☐ 会議、委員会等の職務分掌を規定し、意思決定のプロセスを明確化している。 ☐ 会議、委員会等の議事録（記録）は、必要に応じて作成・保存している。 ☐ 組織運営のための規則・規程等を整備している。 ☐ 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正されている。			組織図 組織役割表

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		□部署別研修や職階ごとの研修の機会を設け、資質の向上に努めている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
部署内の連携については学科会議、TBM 等で実施。学校全体としては全体会、運営会議、教務会議等を実施している。また、各行事のプロジェクト形式で実施している。	会議、プロジェクトは人材育の一環としても捉えている。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	山口 敦
--------	------------	-------	------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	☐ 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか ☐ 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか ☐ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか ☐ 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか ☐ 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3	☐ 採用基準・採用手続きいずれも明確に規定されている。 ☐ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、労働条件通知書をもって明確化している。 ☐ 昇任・昇給の基準を「目標管理制度」として明確化している。 ☐ 評価システムを規定し、数値目標での評価と情意効果の両面で評価している。			採用規定と評価システム 就業規則

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学園の基準に従い採用活動を行っている。	

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	☐ 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか ☐ 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか ☐ 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	3	☐ 教務においては進級・卒業判定会議を開催し、学校長が決裁する。 ☐ 財務等の事務処理においては事務局長の決済のもと意思決定がなされている。 ☐ 組織図と職務分掌において規定されている。	☐ 職員一人ひとりの予算意識を高める。	☐ 企画書、稟議書の徹底。	職務分掌

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教務および財務の処理手続きに関する意思決定と体制については、明確に規定され、学校内だけでなく学園内の専門部署においても複数のチェック体制で実施している。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	山口 敦
--------	------------	-------	------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	☐ 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか ☐ これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか ☐ 学生指導において、適切に(学生情報管理)システムを活用しているか ☐ データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか ☐ システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか	3	☐ 学園として DX の強化を図っている。学校にも DX 委員を任命し、研修等を実施している。 ☐ iPadによる出席管理システムを導入している。 ☐ マイクロソフト teamsを導入している。 ☐ サイボーズガルーン、BOX を活用し他コミュニケーションシステムを導入している	☐ 情報システム活用のためのハード面、ソフト面、デバイス管理	☐ 広報、教育、就職業務の DX 化の更なる推進。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
滋慶学園グループ関連企業と連携して強固かつ便利な情報システムが構築されていることで効率化、省力化が図れている。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	山口 敦
--------	------------	-------	------

基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
年度内に全ての教育プログラムを計画通りに終えることができた。 「教育」では、導入研修改革、カリキュラム改革、ひとり一人の学生をチームで支援することをテーマに取り組んできたが、問題学生発見の遅れ、対応の迅速さに欠けるケースがあった。また、持病、メンタル面の不具合をきたす学生が多くみられ、それらに対応する対策をJTSCと協力しながら再構築する必要がある。	担任業務効率化、情報共有のスピード化のため Teams、SharePoint を活用したクラス運営、担任会議による担任の教務マネジメント力の向上、教務研修の実施により学校全体の教育力を高めていく。 国家試験合格率向上のため、通信・国試センターを設置し、年間計画の見える化、課題学生のフォロー計画を立て学校全体で国家試験に臨む態勢を構築する。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山 かがり
--------	------------	-------	--------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	☐ 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか ☐ 職業教育に関する方針を定めているか	3	☐ 教育課程編成委員会のご意見を加味し、常に最新のカリキュラムに改定している。 ☐ カリキュラム改定に関しては、学科長が起案し、カリキュラム会議にて決定している。			教育指導要領
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	☐ 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか ☐ 教育到達レベルは、理念等に適合しているか ☐ 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか ☐ 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	2	☐ 学期毎に到達目標を設定している。 ☐ 養成目的、教育目標則している。 ☐ 資格取得にかかる担当教員を選任し、入学段階よりフロー教育プログラムにしている ☐ 資格取得のための対策講座と補習プログラムを確立している ☐ 学科ごとに3つのPを定めている。	☐ 学生の多様化により、クラス内でのモチベーション格差、習熟度格差が生じており、担任業務の難易度が上がっている。	☐ 2・6・2の法則に沿い、上位層の課外プログラム、下位層のサポートプログラムを充実させる。	教育指導要領

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
建学の理念に基づき、3つのP「DP CP AP」を学校、学科ごとに明確にしている。	トップサロンゼミ、企業コラボ(アシスタントプログラム)を軸に産学連携を図っている。

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	☐ 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか ☐ 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか ☐ 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか ☐ 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか ☐ 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか ☐ 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか ☐ 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか ☐ 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか ☐ 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	2	☐ 学科長がカリキュラムを考案し、カリキュラム会議にて決定している。 ☐ 教員・時間数は法定要件を満たした上で一般科目をバランス良く配分している。 ☐ 教育課程に明記 ☐ 目標に沿ってその分野のスペシャリストである講師がシラバスを作成し授業を運営。 ☐ 到達目標の設定に基づき適切に授業形態を選択している	☐ 高校までの学校教育の変化により、従来の受け渡し教育ではもはや学生の満足度は上がり、よりコーチングの要素を伴った引き出す教育手法が必要となる。	☐ それぞれの成長段階、履修段階を踏まえた指導と支援、コーチングとティーチングの使い分けができるよう、教務研修を充実させる。 ☐ 教育の ICT 化を推進し、遠隔授業を含めた、教育手法とアクティブラーニングの推進を図る。 ☐ 教職員の意識改革のための会議、研修の実施。	カリキュラム(学生便覧) 教育指導要領 シラバス 授業報告書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	☐ 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか ☐ 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか ☐ 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているかを ☐ 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		☐ ポートフォリオを活用し職業実践教育をプログラム化している。 ☐ シラバス・コマシラバスともに作成している ☐ 年度ごとに見直し改定を行っている。	☐ シラバス、コマシラバスの精度向上と学科のチェック体制。	☐ 学科長がチェックし、教務部長が最終確認する。	カリキュラム(学生便覧) 教育指導要領 シラバス 授業報告書
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	☐ 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか ☐ 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか ☐ 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	☐ 学校関係者評価委員や教育課程編成委員会メンバーに卒業生に参画してもらい、意見聴取を行っている。 ☐ 就職 1 年以内の離職調査の実施など、キャリア支援専属のスタッフが業界とのコミュニケーションを密にとっている。			カリキュラム表
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	☐ キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか ☐ キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	3	☐ 学園のキャリアロードマップに即し、社会人基礎力の醸成に努めている。			

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		□教育課程編成委員会や業界訪問を通して必要とされる人材像に照らし合わせて意見を頂いている。		□卒業生が活躍するサロン等で職員が施術を受けるプログラムを実施している。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	2	□授業アンケートを実施している。	□授業アンケート実施体制とフィードバックが確実に実施される体制に課題がある。	□授業アンケート実施体制、フィードバックについて教務会議で再考し、確実に実施する。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
GPA 評価、SU 評価を導入し、瀬愛基準に即した評価ができるようにしている。 授業評価、成績評価の厳格化とルールに基づいた成績確定を再度徹底していく。	

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	☐ 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか ☐ 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか ☐ 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	3	☐ 学則及び学則施行細則にて明記し全学生に配布している。 ☐ 試験規定を作成しその基準に準拠し公正公平に評価している。また、進級や卒業については判定会議を実施している。 ☐ 学則に単位読み替えについて明分化している。			学則 学則施行細則 進級判定会議議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	☐ 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	☐ 在校生のコンテスト参加実績の成果を SNS に UP している。			SNS 入学案内

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
成績評価に関しては学則に基づき厳格に行っているが、学生の変化、業界が求める陣坐像の変化により、学業の評価方法についても柔軟に見直していく必要がある。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	☐ 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか ☐ 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	3	☐ 入学前のオープンキャンパスから入学後の導入教育、授業の中で資格取得についての意義、プロセスを明示している。 ☐ 必要に応じ資格試験対策を実施している。			学校案内 学生便覧
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	☐ 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか ☐ 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	2	☐ 業務役割分担表で担当を決め、複数の担当教員と連携し受験指導をマネジメントしている。 ☐ 不合格者については合格するまで学校が無償でサポートする「合格サポート制度」で、今年度も再チャレンジ者全員が合格した。	☐ 学生の基礎学力チェックから技術力チェックによる指導計画の早期策定と見える化。	☐ チーム内での役割分担を明確にし、学科長の責任の下計画立案・実行・振り返りを行う。 ☐ 通信国試センターとの連携を図り、合格フローを構築、システム化する	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
美容師国家試験合格率が 90% を切ってしまった。内訳をみると実技試験は全員合格したものの、筆記試験での不合格者数が増加した。筆記試験不合格者を見ると、対策授業、模擬試験への出席率が低いこと、基礎学力が低いことが判明。次年度は焦点を絞った対策を立案していく。	

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	☐ 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか ☐ 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか ☐ 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか ☐ 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携しているか ☐ 教員の採用計画・配置計画を定めているか ☐ 専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか ☐ 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか ☐ 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	2	☐ 法定科目はコンプライアンスに沿って、一般科目は経験と教授能力で選任している。 ☐ 履歴書・資格書の提出を持って確認している。 ☐ 業界での経験を重視し適合しているかを確認している。 ☐ 業界講師や業界に人材の紹介を依頼している。また、現場経験を積んだ卒業生を講師として登用している。 ☐ 9月より次年度に向けての配置計画を行っている。 ☐ 毎年明示している。 ☐ 募集・採用・昇給の規定は明文化している。 ☐ 業務役割分担と講師時間割にて把握している。	国試系科目講師の育成、拡充	研修参加における補助、支援	カリキュラム表 法定科目教員要件一覧 講師別時間割

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資 質向上への取組 を行っているか	☐ 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ☐ 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ☐ 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか ☐ 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	☐ 講師面談、スタッフ面談を実施してる。 ☐ 講師会議、教務研修を実施し、マインド面とスキル面双方の育成を図っている。 ☐ 業界団体の研修やJESC研修、など年に複数回の研修をしている			研修企画書
3-12-3 教員の組 織体制を整備して いるか	☐ 分野毎に必要な教員体制を整備しているか ☐ 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ☐ 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか ☐ 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ☐ 専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制を構築しているか	3	☐ 分野毎の教員はコンプライアンスに沿って整備し、組織役割表と業務役割分担表において分担と責任は明記している。 ☐ 講師会議や TBM にて連携・協力体制をとっている。			組織図 業務役割分担表 講師会議企画書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
Z 世代の特性をとらえた授業手法に切り替え、講師研修会等を通じ世代特性を把握し、授業環境、カリキュラムを考えていく必要がある。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
【就職実績】 卒業:128名 就職希望者 118名 内定者: 115名 ■3 月末時点での就職決定率は 97%。 卒業後も支援し続ける結果となった。 【国家試験実績】 ■美容師国家試験 美容師科 受験者56名 合格49名 合格率 87.5% 【在校生の活躍】 ■サッポロコレクションでは在校生 100 名が運営、ヘアメイクアシスタント、フィッターなどで活躍した。 ■ファッションストリートフェスタではヘアショーを実施した。 ■大丸百貨店20周年企画で 14 日間に渡り、施術提供を行った。 ■出張美容(バルズビューティ)にて就労支援施設等で施術提供を行った。 ■業界のフォトコンテスト等に積極的に応募し、日ごろの授業の成果を発揮した。 ■フランスのヘアスタイリスト、メイクアップアーティストと	□就職 学科特性をとらえた就職支援対策を問題解決サイクルに沿って実施する。 学生支援センターのキャリア支援部門強化 □国家試験 1 年生から国家試験を意識したフローの策定と課題学生対策の早期立案・実施。 通信国試センターと連携し、授業担当講師に向けて国家試験対策会議を実施する。 □トップサロンゼミ、アシスタントプログラム、コンテストなどに積極的に取り組む学生を育成し、現場の質にもこだわる。 学校としては最新の美容・ファッションを学べる環境を常に整備し、札幌・東京の企業との産学連携教育を推進する。	

最終更新日付	2024 年5月31 日	記載責任者	白山 かがり
--------	--------------	-------	--------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	☐ 就職率に関する目標設定はあるか ☐ 学生の就職活動を把握しているか ☐ 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか ☐ 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか ☐ 就職率等のデータについて適切に管理しているか	2	☐ 就職目標を設定している ☐ 就職活動状況表にてリアルタイムに把握している ☐ 第一専門職の業界とは常に情報共有し就職状況を把握している ☐ 業界主催のセミナーや本校主催のセミナーなどを実施している ☐ 就職担当者会議を実施している。	☐ 入学したものの、就職を希望しない学生が一定数発生している。	☐ 入学時からのキャリアプラン、教務部とキャリアセンターの密なる連携を図るための会議を実施。	就職数字 就職活動状況表

--	--	--	--	--	--	--

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業式までに内定するための就職支援フローが必要。また一定数就職を希望しない学生が発生している。就職希望をしない要因分析、フォロー体制を含め検討し、次年度の就職支援につなげていく。 学科の養成目的と就職支援がぶれないようにすることが必要。	ベル 4 校のキャリアセンターが連携している。

最終更新日付	2024 月年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	--------------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	☐ 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか ☐ 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか ☐ 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか ☐ 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	2	☐ 資格取得目標を設定している ☐ 必修資格はカリキュラムに対策講座を組み込み、選択資格は放課後に対策授業を実施している ☐ 全国と北海道どちらも比較を行っている。 ☐ 国家試験対策会議を定例で実施し改善を図りながら指導している	☐ 学生の基礎学力チェック、技術力チェックを早期に実施し、適切な指導計画を策定すること。	☐ 学科長が中心となり、チームで対策を検討する。 ☐ 通信国試センターとの連携を図り、合格フローを構築する	事業計画書 時間割 作問体制&統一模試

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
今年度は筆記試験不合格者が多く出た。通信国試センターと連携し、学校全体で国家試験に対して意識を向け、学生、講師、担当スタッフの支援をしていく。 また、1 年次から受験までの国家試験対策フローの策定が求められる。	学園の国家試験対策センターやベル美容 4 校の国家試験対策連携会議を実施している。 通信国家試験センターの設置。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	☐ 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか ☐ 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	2	☐ 就職後1年以内の離職調査を実施している。 ☐ 卒業生からの情報により、昇進や開業を把握している。 ☐ コンテストでの支援や受賞状況は常に把握できている	☐ 卒業生情報を確実に把握できる体制を整える必要がある。	☐ 同窓会機能をより活発化させる。 ☐ HP や SNS を通した卒業生との情報共有。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
開講して 20 年が経過する中、独立開業をする卒業生、マネジメントを担う卒業生も出てきた。卒業後未永く業界で活躍できる人材育成に今後も励んでいく。	同窓会の実施。

最終更新日付	2024 年5月31日	記載責任者	白山 かがり
--------	-------------	-------	--------

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
□学生支援については、入学前から在学中、卒業後までのフローを元に支援している。 □入学前は目的意識、職業観を明確にし、在学中は将来の夢へ向かっての自己変革支援、卒業後はキャリアアップ支援をしている。 □支援の過程では、個別支援と集団支援を織り交ぜ、担任による支援、チームによる支援を実施している。 □学園の支援としては、キャリアサポートアンケートを実施し、個別の学生支援をサポートするとともに、カウンセラー(SSC)が常駐し、学校と連携している。 □就職支援についてはキャリアセンターが、学費支援は学生サービスセンターが教務部と連携して個別支援している。 □高等教育機関を対象にした国の修学支援制度、日本学生支援機構の奨学金制度、本校の学費分納制度等経済的に厳しい学生の支援体制が整ってきた。利用学生の増加に伴い、成績不良者、退学者も増加傾向にある。	□学生支援の土台はクラス運営である。担任のクラス運営力を高めるために定期的に教務研修を実施する。 □学費サポートの強化、学費滞納がでないよう、入学前の個別面談、入学後の個別面談を実施する。	□入学者の約半数が修学支援対象もしくは奨学金を併用しての分納をしている。 □製菓調理校との校舎により、事務部門(学生支援センター、広報センター)の業務統一化を図るとともに、センタースタッフは両校を担当することとなる。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山 かがり
--------	------------	-------	--------

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	☐ 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ☐ 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ☐ 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ☐ 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ☐ 就職説明会等を開催しているか ☐ 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ☐ 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	2	☐ 学生支援センターを中心に卒業年次生担任が連携している。 ☐ 就職会議を実施し、各学科の就職支援状況を把握している。 ☐ 学園の就職システムで求人票を公開している。 ☐ 学校主催の就職セミナーと業界主催の就職セミナーを織り交ぜている。 ☐ 就職講座と個別指導で実践している ☐ 個別面談は随時行っており適切に対応している	☐ 履歴書指導、面接指導などで時間外労働が増えている。	☐ チームでの就職支援、経験年数が少ない担任のサポート、指導を実施。 ☐ チームの役割分担により、明確な担当者とその担当者フォロー体制を構築する。	就職講座シラバス 就職活動一覧表

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
就職支援の流れは確立できているが、毎年就職を希望しない学生が発生する。2年間の教育カリキュラムの見直しや、適切な就職動機付け、就職行事の再構築が必要。	トップサロンゼミやアシスタントプログラムは、自分の将来を見定めるプログラムとしても機能している。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	☐ 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか ☐ 指導経過記録を適切に保存しているか ☐ 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか ☐ 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	2	☐ 中途退学者の傾向・分析を毎年総括している ☐ 面談記録、支援記録を教務管理システムと連動し整理している。 ☐ キャリアサポートアンケートを実施・分析方法の勉強会を実践し指導している。 ☐ 定期的な個人面談の実施。	☐ 入学者が多様化する中、担任のクラス運営力と個別カウンセリング力を高める必要がある。 ☐ 一人の学生を複数の目で見えるチーム支援の確立と学籍管理の厳格化	☐ 教務部と学生支援センターが連携し、成績管理、学籍管理を確実にしている。	教育総括 キャリアサポートアンケート

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
心配学生の早期発見、早期接触を目的として定期面談を定期的に実施。今後も複数でかわりチームで心配学生を支援していく。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山 かがり
--------	------------	-------	--------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	☐ 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか ☐ 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか ☐ 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか ☐ 相談記録を適切に保存しているか ☐ 関連医療機関等との連携はあるか	2	☐ 学内に SSC を開設し支援体制を構築している ☐ 計画的に SSC の学生への案内活動を行い利用しやすい環境を構築している。 ☐ 卒業生にも必要に応じて対応している	☐ カウンセラーとのコミュニケーション強化。	☐ カウンセラーも講師会議等へ参加し、学校、学科の方針等の理解を得る。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	☐ 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか ☐ 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか ☐ 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか ☐ 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3	☐ 留学生担当を置き、留学生の支援に努めている。 ☐ 母国語での対応が必要な場合は学園グループのスタッフの協力を得て対応しているまた、入学前と入学後と継続し生活指導も行っている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
今年度留学生の入学はなかったが、学校としては常に門戸を開いている。	学校に留学生担当を置き、学園の総務センターと連携している。

最終更新日付	2024 年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	-------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	☐ 学校独自の奨学金制度を整備しているか ☐ 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか ☐ 学費の減免、分割納付制度を整備しているか ☐ 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか ☐ 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか ☐ 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	2	☐ 必要に応じて滋慶特別奨学金の活用を行っている、また大規模災害時や家計急変時には適宜支援している ☐ 募集要項に減免制度を明記し運用している ☐ 公的支援制度を適切に活用し適切に利用するように学生指導している ☐ 学生・保護者に適宜文書と口頭で情報提供している ☐ 経済支援制度の利用一覧を作成し実績をリアルタイムで把握している ☐ 修学支援対象校である。	☐ 奨学金、修学支援対象学生が増加にともない、学費分納者も増えている。学業に支障をきたすと学費納入もままならなくなるため、教務と学生支援部門の連携がより必要になる。	☐ 教務部と学生支援センターの情報共有スペースの確保し、正確かつ迅速な対応をしていく。	奨学金学生納入一覧
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	☐ 学校保健計画を定めているか ☐ 学校医を選任しているか ☐ 保健室を整備し専門職員を配置しているか ☐ 定期健康診断を実施して記録を保存しているか ☐ 有所見者の再健診について適切に対応しているか	3	☐ 毎年健康診断を計画的に実施し、有所見者の再健診を徹底し結果を把握し必要な処置を講じている ☐ 学園の学校医を選任し、必要な医療健康相談が実施できる。			健康診断結果

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	☐ 健康に関する啓発及び教育を行っているか ☐ 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか ☐ 近隣の医療機関との連携はあるか		☐ 健康管理は就職活動に関連付けて啓発しており、心身の健康相談については SSC が兼ねている ☐ 近隣に指定医療機関を置いている			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	☐ 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか ☐ 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか ☐ 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	3	☐ 学園の学生寮を整備している ☐ 寮との会議を定例で開催しており必要事項の共有を行っている ☐ 寮会議での議事にて明確になっている			
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	☐ クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか ☐ 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか ☐ 大会成績など実績を把握しているか	3	☐ 学生スタッフ活動は担当者を配置して常に指導を実施している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
経済的に厳しい学生が増加しており、奨学金貸与者、修学支援適用者が比例して増加している。そのような学生は教務部、学生支援センターが連携し、一人一人の状況に合わせた支援が必要になってくるため、日ごろから両部門のコミュニケーションの活発化を促進しているが、更なる連携が必要と考える。	

最終更新日付	2024 年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	-------------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	☐ 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか ☐ 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか ☐ 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか ☐ 緊急時の連絡体制を確保しているか	2	☐ 計画的に保護者便りを送付している。 ☐ 学校関係者評価委員会の委員として保護者代表が参加している。 ☐ 学生の学力支援・心理支援双方において保護者に開示し協力体制の構築に勤めている ☐ 緊急連絡先(自宅・携帯・勤務先)管理している。	☐ 学生の状況に無関心な保護者の対応。	☐ SNS、学科だよりなどを通じて学校、学科の取り組みを発信する。 ☐ 保護者会の実施。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生の問題が深刻化する前に保護者への連絡を行い、必要に応じて保護者面談を実施している。また、保護者便り、ホームページ、SNS を通して学校情報を提供している。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	☐ 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか ☐ 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか ☐ 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか ☐ 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	2	☐ 卒業生への就職相談に常に応じている ☐ 常に卒業生に対してオープンな学校であることを心掛け、あらゆる相談やアドバイスに応じている。	☐ 卒業生数が年々増えているが、システムティックな卒業生の動向把握が必要である。 ☐ 同窓会の活性化	☐ 在学中から卒業後の支援について周知する。	同窓会企画書
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	☐ 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか ☐ 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	2	☐ Jキャリアスクールが立ち上がり、卒業生がオンライン上で各種講座を受講することができるようになった。	☐ J キャリアスクールの認知拡大と卒業生が受講したいと思う講座の開発。		

5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	☐ 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか ☐ 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか ☐ 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか ☐ 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	3	☐ 社会人の入学規則は学則と募集要項に明記している。 ☐ 学則施行細則に長期履修制度を明記している ☐ 学校施設の利用については、放課後・休日を利用できる配慮をしている ☐ キャリアセンター・担任が中心となり支援している			募集要項 教育指導要領
---------------------------------	---	---	---	--	--	----------------

5-21 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
生涯教育をコンセプトに卒業生の卒業後の支援を行っているが、体系的な卒業生支援まで至っていない。	Ｊ キャリアスクールが立ち上がり、卒業生が各種講座を受講することができるようになった。 長期高度人材育成プログラムに参画し、美容師科において社会人を受け入れている。

最終更新日付	2024 年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	-------------	-------	-------

基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
2002 年に開校し、20年が経過しているため、備品の老朽化に対しては、不具合が出た場合の補修と不具合の未然防止のための補強を実施している。 長期修繕計画をサポート企業とともに策定し、安心安全な校舎環境の維持につとめている。 教育機器備品については必要に応じ入れ替えを行い、教育環境を整えるようにしている。 小中高等学校の学習指導要領が改訂となり、教育のICT 化が推進される。本校としてもその対応を実施する必要がある。	教育機器備品についても計画的に刷新していく。個々の授業に必要な物品については学科長が予算の範囲内で計画的に整えていく。 SharePoint の活用を促進するなどデータ化、DX化を推進していく。	DX 推進委員を選定している。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	☐ 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ☐ 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ☐ 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ☐ 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ☐ 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ☐ 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか ☐ 卒業生に施設・設備を提供しているか ☐ 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ☐ 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	2	☐ 施設設備は毎年整備し且つ法令も遵守している ☐ Wi-Fi 環境が整っている。 ☐ 各学科に必要な実習室を用意している。 ☐ 実習機材器具についても整備している。 ☐ 学生の休憩スペースを用意している。 ☐ 手すりや段差の少ない構造にしている。 ☐ 手洗うがいを奨励し、感染症の予防に努めている。 ☐ 卒業生にも希望に応じて施設を貸し出している ☐ 施設設備の点検は専門の業者に委託している。 ☐ 毎年長期修繕計画の見直しを行っている。	☐ 備品管理が徹底されず、紛失が多くみられる。	☐ 備品管理、共有備品の使用ルールを見直す。 ひとり一人の意識を高めていく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
コンプライアンスに則り、学習環境の維持と改善を継続している。 より良い教育環境の提供の為に、改修も行い最良で最先端の学習を提供できる設備を維持するよう努力している。	2023 年 4 月に製菓調理校と校舎統合を果たした。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	☐ 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか ☐ 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか ☐ 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか ☐ 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか ☐ 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか ☐ 学外実習等の教育効果について確認しているか ☐ 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか ☐ 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	3	☐ 教育・就職スケジュールの中で重要性や意義・目的を明確にしている ☐ 企画書を作成し、適切に運用している ☐ 産学連携に力を入れ、各科の特性に応じ、ゼミや実習を行っている。 ☐ 実習関連科目に関しては、SU 評価を行っている。 ☐ 必要に応じ各実習先への引率、訪問を実施している。 評価表と報告書により教育効果を確認している ☐ 学生が自ら考える機会を考慮し行事に参画させている ☐ 学校は常にオープンにしており、授業見学、行事見学を推奨している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
業界から学校へ来ていただくトップサロンゼミ、学生が業界へ出ていく企業コラボ(アシスタントプログラム)は年間を通して実施している。今後はその評価基準を見直し、業界が求める人材と合致させていくことと、常に新しい連携先の開拓が重要である。	美容業界はもとより、ファッション業界、テレビ局、エンターテインメント企業、スポーツ関連企業とも連携を始めている。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか ☐ 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか ☐ 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか ☐ 防災(消防)訓練を定期的実施し、記録を保存しているか ☐ 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか ☐ 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか ☐ 学校安全計画を策定しているか ☐ 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか ☐ 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	3	☐ 学園より学生・職員に対しての危機管理マニュアルの基本が示され、学校として危機管理マニュアルの策定を行った。 ☐ 耐震構造の建物である定期的に点検し改善を行っている ☐ 避難訓練と AED 研修を年 1 回実施している ☐ ロッカーの転倒・滑り止めの対策を行っている ☐ 学生・教職員に防災訓練と教育を実施している ☐ 学校の安全計画と緊急時の対応方法を確立し整備している ☐ 学校校門のセキュリティを万全にしている。 ☐ 事故等が発生した場合の対応マニュアルの整備とともに、学園の非日常的事態報告様式により報告共有している。	☐ 危機管理マニュアルの職員、講師への周知。	☐ 学生支援センターが所管し危機管理マニュアルの改訂、職員への周知を図っていく。	

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	☐ 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか ☐ 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		☐ 担当教員、担当学科が責任をもって管理している。 ☐ 担当を必ず置き引率体制を引いている			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
自然災害等に備えた緊急事態体制、災害グッズ、水、食料の備蓄在庫の確認と更新は常に行っておく必要がある。また、日々の安全管理、意識を教職員、学生ともに高めておく必要がある。	防災マニュアルから危機管理マニュアルへの改定を行った。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守し、適正に学校募集が出来るように配慮している。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページ、SNSを活用し、教育内容や成果を伝えている。 これら、すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・入学生の個人情報など本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出および他目的使用のないように管理と研修の徹底を図っている。 入学選考に関しては、選考スケジュールを募集要項に明示している。入学試験終了後は、学校長・事務局長(局次長)・教務部長・広報センター長(事務局)、全学科長により構成される、「選考会議」により可否を確定している。 学納金に関しては、毎年見直しを行っており、経費削減に努め、適正な水準で学費設定をしており、募集要項に明記している。	道内の美容系進学希望者は過去5年700名台で推移しており、大幅な減少があるわけではない。この700名を8校が分け合う形になっているが、札幌の主要4校で600名、地方4校で100名の割合になっていることは昨年同様である。 今後は札幌ベルエポック美容専門学校が目指すところ、強みを強化し、さらなるブランド化を推進していく。また、高校生等入学希望者が望む美容学校と、我々が考えるそれに乖離がないかを調査し、カリキュラムの特徴を打ち出していく。	最新の美容・ファッション札幌で学べる学校としてのブランドを強化している。

最終更新日付

2024年5月31日

記載責任者

阿部 宏之

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	☐ 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか ☐ 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか ☐ 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	3	☐ 学外で行なわれる進学相談会にも積極的に参加し、情報提供を行なった。 ☐ グループ校で高校担当部署を設け、職員が定期的に高校を訪問し、教員への情報提供を行なっている。 ☐ 教員や保護者を対象とした学校案内を作成している。	☐ 高等学校との信頼関係構築 ☐ 地方在住者へのアプローチ	☐ 高校訪問の実施 卒業生情報の提供 ☐ 進路ガイダンスへの参加 ☐ 職員の進路相談力を高める。	☐ 入学案内・募集要項 ☐ 保護者向けパンフレット

7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	□入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか □専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか □志願者等からの入学相談に適切に対応しているか □学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか □広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	3	□ 北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。 AO 入試は6/1 エントリー受付開始、9/1 出願受付開始、その他は 10/1 から出願受付開始) □ 志願者からの相談に関してはフリーダイヤルの他、メールでも対応できる体制を確保。また、年間を通してオープンキャンパスを開催し、常に来校して相談できる環境を整えている。全教職員に対して広報に関する勉強会を実施し、誰でも対応できる体制にしている。 □ 学校案内等において具体的な就職データ、資格取得データを明記し、正確に情報を伝えている。 □ 校内に個人情報保護委員会を設置し、管理と研修の徹底を図っており、TRUSTe プライバシー・プログラムのライセンスを取得している。			
-----------------------------------	---	----------	---	--	--	--

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	☐ 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか ☐ 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		☐ 選考方法は、高校生・社会人を対象とした AO 入試や、自己推薦入試、一般入試を実施し、受験者にわかりやすい入試制度にしている。	☐ 留学生募集要項の明確化。		☐ 入学案内 ☐ 募集要項

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生募集活動は、北海道私立専修学校各種学校連合会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。 個人情報においては、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則を基に、学校案内、募集要項の通りに適正に行われていると考えている。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	阿部 宏之
--------	------------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	☐ 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか ☐ 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか ☐ 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	3	☐ 入学選考基準・方法は学則及び募集要項に明記している。 ☐ 入学試験後に全学科長及び学校責任者、広報責任者により構成される、「選考会議」で基準に基づいて公平に合否を確定している。			☐ 募集要項 ☐ 募集要項、選考会議議事録

7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	☐ 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか ☐ 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか ☐ 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか ☐ 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	3	☐ 現況データに関しては、開校以来のデータを学内の共有サーバーに集約・保管している。(サーバーは定期的にバックアップを取っている) ☐ 当該年度の予測数値に関しては、過去のオープンキャンパス参加者等の実績データから、早期に的確に予測している。また、入学者数の予測数値に関しては5年先までの計画を立てている。 ☐ 財務に関しても5年先まで計画を作成しており、その進捗度合いを毎年チェックしている。また入学者数の予測と収入予測の整合性も取れている。	☐ 予測と結果の乖離が課題	☐ 若年層にも広報領域を拡大してナーチャリングに力を入れていく。	☐ 現況データ
-------------------------------------	---	---	---	--------------------------------------	---	--------------------------------

7-26 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
入学者選考においては募集要項に定めた方法、スケジュールで適切に実施している。また、入学生を対象としたアンケートも実施し、その結果を授業運営等に活用している。 将来の予測については常に5ヵ年先までの計画を立てており、毎年その進捗と計画の見直しを実施している。	紙ベースでの AO エントリー、出願から全面的にネットエントリー、ネット出願に切り替える。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	阿部 宏之
--------	------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	☐ 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか ☐ 学納金の水準を把握しているか ☐ 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	3	☐ 学納金や預かり金、教材及び講師の見直しを、毎年全学科長及び学校責任者、学生支援センター責任者、広報責任者が参加する会議にて行っており、学費及び諸経費の無駄な支出がないかチェックしている ☐ 同分野他校の学納金を調査し、適正な学納金を定めている。 ☐ 徴収する金額は募集要項上にすべて記載している。	☐ 高等教育機関修学支援制度が開始され、適切な運用が求められる	☐ 学生支援センターがチームとして複数の目でチェックしていく体制を整える。	☐ 募集要項

7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	□文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	3	□募集要項に明記しており、入学辞退の申し出があった場合には適切に対応している。			□募集要項
--	--	---	---	--	--	-------

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学納金については必要に応じ見直しを行っており適正な水準で設定している。また、入学辞退者への学費返納についても、文部科学省の通知及び、北海道私立専修学校各種学校連合会の基準に基づき、募集要項にも明記し、適正に対応している。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	阿部 宏之
--------	------------	-------	-------

基準8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
毎年 5 か年の事業計画を策定し、中長期の視点で予算を立てている。また、収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。 学園本部のチェック、学校のチェックと二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。 監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。 平成 17 年 4 月から私立学校法に基づいた財務情報公開をしている。 ※当校における情報開示の申請は、現状では 0 件。	健全な学校運営を行うため、5 か年の事業計画、収支予算は有効かつ重要な手段と考える。しかし近年は環境の変化が激しく、正確な予算作成が難しくなっており、さら学科や部署にまたがる支出項目(行事や講師)があるため、予算作成と進捗の確認が難しくなっているが、広報予算、教育予算は各部署のマネージャーが執行チェックをするのと同時に、学校全体の予算執行状況と照らし合わせていく。 また、精算管理システムの承認プロセス、財務部と連携しながら予算執行管理の精度を高めていく。	当法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。 <組織体制> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 <公開資料> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 <閲覧場所> 法人本部

最終更新日付

2024年 5 月 31 日

記載責任者

放生 和朗

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	☐ 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ☐ 収入と支出はバランスがとれているか ☐ 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ☐ 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ☐ 設備投資が過大になっていないか ☐ 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	3	☐ 毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。 ☐ 入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。 ☐ 借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行しており、これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。			
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	☐ 最近3年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか ☐ 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	3	☐ キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。			

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	☐ 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ☐ キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ☐ 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか ☐ コスト管理を適切に行っているか ☐ 収支の状況について自己評価しているか ☐ 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		☐ 学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組んでいる。 予算は学園内部の監査もあり2重チェックでミスが起きないように管理されている。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	☐ 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ☐ 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	3	☐ 5ヶ年の収支予算を作成し、毎年見直している。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。			
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	☐ 予算の執行計画を策定しているか ☐ 予算と決算に大きな乖離を生じていないか ☐ 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ☐ 予算規程、経理規程を整備しているか ☐ 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	3	☐ 収支予算については学校現場のみならず学園本部も協議しながら作成し、見直しする。そのため予算の本部と現場との認識のずれはない。 ☐ 作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。 ☐ 必要に応じ、年次途中で修正予算を組む。	☐ 広報予算、教育予算は年初にチームに配分しているが、各マネージャーが適正に執行できるように、また、それをチェックする必要がある。	月1回の運営会議で各チームの予算執行状況をチェックする。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているのが妥当な方法と考えている。 5ヶ年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものとする。	年度の途中で随時見直しをしている。 それにより収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	☐ 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ☐ 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか ☐ 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか ☐ 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	3	☐ 学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	☐ 当該業務は俗人的になりやすいため、いかにチーム体制を組むかが課題。	☐ 組織改編し、業務が人に付かぬよう、チームで対応できる体制にする。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
監査報告書は適正な帳票書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考え。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか ☐ 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか ☐ 財務公開の実績を記録しているか ☐ 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	3	☐ 私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 ☐ 財務公開の実績を残している。 ☐ 財務情報はホームページで公開している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
財務情報公開の体制整備はできている。 学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できるよう、本部と学校が連携している。	財務関係業務は学校のみで行っておらず、専門のサポート企業が支援していることにより、適切な財務関連業務が行えるようになっている。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法令を遵守するという考えを学校の基本方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。 学校法人は文部科学省の規定する専修学校規定ならびに厚生労働省の規定する各国家試験に関わる養成施設指定規則&養成施設指導要領に準拠していなければならない。 本学園では法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。	変更の度に提出が義務付けられている学則変更などには適正に対応しているが、今後もコンプライアンス、ガバナンスを怠り無く継続する。 各マネージャーが学校教育法、私立学校法、養成施設指導要領に記載されている事項を更に理解し、コミットメントしていく環境をつくる。	学園本部と連携しながら、コンプライアンスに関する勉強会や情報共有を実施している。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	☐ 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか ☐ 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ☐ セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ☐ 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか ☐ 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	3	☐ 法人において、法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施しているが、担当者の異動による引継ぎが課題である。 ☐ ハラスメント防止に関する規定を就業規則に明記している。 ☐ JTSC が相談窓口となっている ☐ 法令順守に関する教育を実施している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本校では法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施している。また、法人内に「コンプライアンス委員会」を設置し、行動規範や規定の策定、研修の実施を行なっている。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	☐ 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか ☐ 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか ☐ 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか ☐ 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	3	☐ 個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、研修の徹底を図っている。 ☐ 個人データを蓄積した記録の取扱いに関しては、各種業務システムによりデジタル管理をしている。 ☐ サイトの運用にあたっては、TRUSTeプライバシー・プログラムのライセンスを取得し、適正に行なわれている。 ☐ 教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施している	☐ 業務の性質上、個人情報を多く扱うため、教職員のさらなる意識向上が重要である。	☐ 定期的な個人情報保護の呼びかけと、業務整理の推進。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校という業務上、日々大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生の教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。	日本プライバシー認証機構による個人情報保護研修を受講している。 学園サポート企業による IT リテラシーテストを受けている。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	☐ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☐ 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか ☐ 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	3	☐ 実施に関し、評価規定の整備を行なっている。 ☐ 自己評価実施に向けて、組織体制を整備している。 ☐ 評価結果を参考にカリキュラム変更を行っている。			☐ 評価規定 ☐ 委員会名簿・組織図
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	☐ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☐ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	☐ 評価結果を報告書にまとめ、ホームページに公開している。			☐ 自己評価結果の公表 (本校ホームページ)
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	☐ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☐ 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか ☐ 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか ☐ 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	3	☐ 実施に関し、学校評価規定の整備を行なっている。 ☐ 学科の養成目的に照らし合わせ、関連業界から委員を選任している。 ☐ 評価に基づき、学校改善に努めている。			☐ 評価規定 ☐ 委員会名簿

9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	☐ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☐ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	☐ 評価結果を報告書にまとめ、ホームページに公開している。			☐ 学校関係者評価結果の公表(本校ホームページ)
--------------------------	--	---	--	--	--	---

9-34 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校関係者評価委員には、学校の取り組み、当該年度の特記事項、授業見学などを実施し、ご意見、提案をいただき、それを学校運営に反映している。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	☐ 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか ☐ 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	3	☐ 情報公開に関しては、本校ホームページや学校案内、SNS にて行なっている。特に日々の教育内容に関してはインスタグラム、ツイッターを活用し日々発信している。 ☐ 学校案内で教育内容を見ることができるのは資料請求者に限られるが、ホームページにも同様の内容を公表しているので広く社会に公開されている。	☐ 遅滞ない情報公開	☐ 教務部と学生支援センター、広報センターが連携を密にし、遅滞ない情報公開ができるような体制を整える。 ☐ 教職員の全体会等を活用し、情報公開意識を高める。	☐ 本校ホームページ

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教育情報の公開に関しては、学校案内及びホームページにて適正に公開している。また、SNS を活用しリアルタイムで学校情報が提供できるようにしている。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	放生 和朗
--------	------------	-------	-------

基準10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本校は、ミッションに「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、積極的に社会貢献活動を行なっている。 具体例として、中高生を対象とした出前授業や総合学習の受け入れ、町内会の地域清掃、夏祭りイベント協力などを実施している。 また、業界への施設貸し出しをはじめ、学校は常に外向きに門戸を開いている。	これまでの取組みを継続して実施し、更なる地域からの信頼獲得に努める。 また、学園祭などの学校行事に地域の方を招待するなど、地域に開かれた学校を目指していく。 北海道、札幌にある学校として、北海道の魅力、札幌の魅力を美容を媒介として伝えていくために、値域の企業と連携を深めていく。 地域清掃をはじめとした、地域貢献にも力を入れていく。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	☐ 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか ☐ 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか ☐ 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか ☐ 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか ☐ 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか ☐ 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか ☐ 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか ☐ 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか ☐ 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	3	☐ 学園のミッションに「業界の信頼」「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、学校をあげて積極的に取り組んでいる。 ☐ 地域の方々を対象に学生サロンを実施している。 ☐ 業界へは、検定試験会場など設備を提供。卒業生へは日々、技術練習のために実習室及び就職情報提供のため、学校を開放している。 ☐ 高校生の総合学習での授業を実施や進学ガイダンスに参加している。 ☐ SNS などの活用方法、トラブル防止のための「IT リテラシー研修」を実施。			

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	☐ 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか ☐ 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか ☐ 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか ☐ 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか ☐ 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか ☐ 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	☐ 学園のミッションに「国際教育」を掲げ、学校をあげて取り組んでいる。 ☐ 学生向けには特別授業を展開している。 ☐ 学園が設置する海外事務所が5カ国にあり、留学生の受入れ窓口になっている。また、韓国・啓明文化大学などの提携校を持ち、留学生の受入れを行なっている。 ☐ 留学生受入れの方針については「外国人留学生入学規則」に明記しており、教育目標等の設定に関しても留学生に対する配慮を行なっている。 ☐ 実施しているのが、海外研修と札幌での国際特別授業であり、国際レベルの教育提供に注力している。			☐ 入学案内 ☐ 保護者・教員向けパンフレット ☐ 教育指導要領

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本学園はミッションの1つとして「国際教育」を掲げ、国際教育に力を入れている。本校では海外教育顧問という位置づけで、フランス・パリの世界的なスタイリストである、ジャン・ミッシェル・ファレトラ氏と連携して、国際教育、海外研修を実施している。 留学生の募集に関しても海外に事務所を構え、入学相談から、入国手続きまで留学生が安心して相談できる体制を整えている。	昨年に引き続きオンラインで海外と繋ぎ、オンライン国際教育を実施した。

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	☐ ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか ☐ 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか ☐ ボランティアの活動実績を把握しているか ☐ ボランティアの活動実績を評価しているか ☐ ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	☐ 小中学生等の受け入れ、高校からの依頼、業界からの依頼に基づく学生動員は積極的に行っている。 ☐ 活動窓口は案件によって異なるが、学校として支援している。 ☐ 活動実績は常に把握しており、企画書形式で活動概要も管理している。 ☐ 活動実績は特に評価していない ☐ 活動結果は学内では朝礼終礼で報告される他、メールにて職員に対し情報共有している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本学園のミッションに「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、地域や業界へ貢献する取組みを行なっている。まだまだ改善の余地があるため、今後も積極的に取組んでいきたい。	

最終更新日付	2024年5月31日	記載責任者	白山かがり
--------	------------	-------	-------

4 令和5年度重点目標達成についての自己評価

令和5年度重点目標と総括

○組織・運営

製菓調理校との校舎統合により、大きな環境の変化があった。組織的にも事務部門(広報センター、学生支援センター)を統合することにより、学校間齟齬を無くしてきた。

各校がこれまで培ってきた仕組みなどを統一する過程での不具合はあったが、ようやく整えられてきたと考える。

挨拶運動に関しては習慣化、地域清掃の定着化がみられた。

○広報

入学者目標を 220 に対し、215名と未達成。出願は 228 確保できたが、学費による辞退が課題。

ヘアメイク科、トータルビューティカにおいては定員目標を達成しているため、美容師科の定員 120 をいかに達成させるかがカギになる。

早期広報の取り組みとしては、職業体験フェスタ、中学生受け入れ、中学校訪問を積極展開した。

○教育

昨年度の DO 率が 12%と低迷したことを受け、導入教育の見直し、担任力の強化、サポートに取り組んできた。結果は 10.9%と 2%向上したが依然として高い。進級率も 86.6%となり課題が残る。今後は心配学生への声かけとチーム共有、E 評価予備軍に呼びかけ、成績評価についての確認、講師とのコミュニケーション、連携を密にする、担任からの学生報告に対し、学科長の素早いアクションと教務部長、局長の巻き込み、学費不安による DO 阻止(局長、教務部長、事務部長によるジャッジ)

○就職

就職希望者 141 に対し 115 名、82.1%であった。TB 科は年内で内定率 100%と検討した。ヘアメイク科もヘアメイク就職割合が向上する等製菓は見られてきている。今後は不合格者が出た場合の早期対応と受験先未定者の個別支援をキャリアセンターと学科長、担任で加速化してくことで、卒業式までに全員内定を目指す。

○校舎統合による新しい価値の創造

美容校と製菓調理校が統合されたことにより、共通イベント、共通行事を通して教職員、学生間の交流が始まった。今後は美容と食の連携授業やゼミなどの企画をしていきたい。

令和6年度の重点課題

組織・運営

- ①人財育成のための人員配置
- ②部署間を横ぐしにした組織運営
- ③事務の統合とシステム化

広報

- ①学生プレス育成
 - ・リーダー育成と精鋭部隊の構築・スキルアップ研修の実施
- ②教職員の広報スキルアップ
 - ・カウンセリング・営業スキル研修→最低、年 4 回実施
- ③ガイダンス・高校訪問・オープンキャンパスの効果的展開
 - ・年間計画に基づいた確実な実行・進路センターとの連携、重点高校への営業強化

教育

- ①即戦力カリキュラムの強化
 - 「業界コラボ」「TOP サロンゼミ」「アシスタントプログラム」を中心に即戦力を培うプログラムを強化する
- ②フロー教育の徹底
 - 教育目標を達成するための仕掛け、仕組みを構築する。多様化対策、Z 世代対策
- ③美と食の統合による新しい価値、幅ひろい学びの提供
 - 学生の興味の領域を増やし、幅広い知識や経験を積める場を提供し、学生満足度を高める

就職

- ①キャリアセンター＝DX 化と仕組みづくり
 - 業務システム及び sharepoint の活用を通してさらに労働生産性を向上する
- ②業界訪問の実施
 - 札幌・東京のサロン、事務所、企業訪問計画を立案し、業界とのパイプを構築する